

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第28号

障害のある人もない人も ともに生きる社会を目指して

平成二十七年 度障害者週間市民のつどい



日時・平成二十七年十二月五日(土)
会場・浦和コミュニティセンター10F・駅前広場
主催・さいたま市 協力・さいたま市障害者協議会
記念事業実行委員会

左から
清水市長、協議会々長、実行委員長



市民のつどい実行委員長 田口秀之助
昨年十二月五日、浦和駅東口「コムナール」において「障害者週間」市民のつどいを開催いたしました。

今までは、与野本町コミュニティセンター、障害者交流センターで行ってききましたが今回のような大きな会場は初めてなので不安も大きかったのですが、実行委員・ボランティア・多くの方のご支援のおかげで千名余りの方のご参加をいただきました。次年度もより多くの方の参加をいただけるよう、一同取組んでいきます。

基調講演

心にしみた多様性を

認めるという言葉

さいたま市議会議員
傳田 ひろみ

障害者週間のイベントとして

「市民のつどい」が毎年行われているが、今年には基調講演を姜尚中氏にお願いするということとで、私も非常に楽しみにしていた。

実は10月にさいたま市の社会福祉大会があり、その時にも姜氏の講演を拝聴し、感銘を受けた。もともとさいたま市に所縁のある方で、聖学院大学の学長に就任されたこともなるほどと思ったし、多くの大学がグローバル化していく中、聖学院は独自の方向性を目指していくのではと期待もした。

ところがその期待とは裏腹に学長というポストをさっさと降りてしまわれた。



その理由については知る由も無いが、ご自分の理念と経営者側の思惑とが一致しなかったのではと思っている。あの優しい語り口からは想像できない強い意思をお持ちの方だと改めて感じた次第である。

さて、基調講演のテーマは、『自己本位』の支え合う社会〜つながる絆が私たちを支える〜

講演の中で今でも印象に残っているのは「多様性を認める」という言葉。自分とは異なるものを次々と排除していく風潮が広がっている今の社会で最も欠けていることではないだろうか。

「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」の表彰式

最優秀賞者

「心の輪を広げる体験作文」

小学生部門最優秀賞

さいたま市立常盤小学校6年

岩下和日香さん「誰かを思うこと」

中学生部門最優秀賞

さいたま市立常盤中学校3年

楠美絢生さん「毎日記念日」

高校生・一般部門最優秀賞

春日部共栄高等学校2年

仁平朱香さん「認知症の患者さんとその家族をサポートするために」

「障害者週間のポスター」

小学生部門最優秀賞

さいたま市立常盤小学校4年

近田早紀さん

中学生部門最優秀賞

さいたま市立大原中学校1年

脇駿太郎くん

高齢者も障害者も子どももみんな一緒にいることで社会は成り立っていくものだし、一方的に誰かに頼るのではなく、お互い様という考えで支えあっていくことの大切さをこの講演を通して再認識できた。

せめて名刺交換でもと期待したが、風のように去られてしまった。残念。



春日部共栄高等学校2年 常盤中学校3年 常盤小学校6年
仁平朱香さん 楠美絢生さん 岩下和日香さん

遊ぼう 学ぼう 交わろう



浦和コミュニティセンターにはレクレーションルーム2か所の他休憩室など、参加者が楽しめる場所がたくさんありました。音楽室ではリズム遊び、ゲームなど、自閉症協会、障害難病団体協議会などが、楽しい企画を立ててみんなで楽しみました。



その他、障害者スポーツ体操（フライングディスク）ヒップホップによるムーブメントダンスなど、楽しい催しがいっぱい。



集 初めての体験 特 浦和「コミセン」で挑んだ「市民のつどい」

昨年度まで、「市民のつどい」は障害者交流センターで開催されてきました。

交通の便も何かと不自由だとか、部屋の配置がホール以外は分かりにくいなどの意見があった、集客が思うように出来ないという欠点がありました。

障害者協議会としては、精い



っばい努力しても、立地条件の問題は解決できなかったのです。

二十七年年度の「市民のつどい」はこうした意見を考慮して、行政のご努力によってJR浦和駅東口広場及び十階の浦和コミュニティセンターをフルに活用したにぎやかな楽しいつどいになりました。

基調講演をお願いした講師姜尚中氏の講演は開催日前から問合せなども多く、座席券を発行して混乱の無いように準備しました。

講演をお聞きになった方は、優しくも心に響く言葉に感動したという反響がありました。

お楽しみにとしてはスタンブラリーを行い、景品をお渡ししました。たくさん参加者があって、景品はあつという間にな

くなりました。

参加の各団体も売店を設営して、日頃の作業で作った作品や野菜、お菓子、パン、パウンドケーキなどを販売し、休憩室ではコーヒーも販売していました。

ともかくごつた返していて、どこに誰がいるやら、何をやっているやら分からないうちに人波にもまれて右往左往…。

最終的にはどのお店も完売状態で、みなさんホッとなさったことでしょう。

聞くとところでは、来年も同じくコムナレで「市民のつどい」開催予定だということです。

鬼が笑っても蛇が泣いても、来年もこの賑わいの中で「市民のつどい」が開催され、参加の皆さんが幸せを感じていただけますようにと願っています。

さいたま市障害者協議会会長

浅輪田鶴子



事務局だより

二十七年市民のつどいが無事に終了し、たくさんの方々のご協力をいただき、本当に感謝しております。

浦和コミュニティセンターでの開催はとても環境に恵まれています。規模的には二倍以上の面積となりました。予算・人員は例年と変わらず、不可能なのではないかと思つたこともあります。一つ一つの催しに対して事務局として至らない点があつたかと思ひ、反省しなければいけないと感じました。

二十八年度の市民のつどいは平成二十八年十二月十日(土)の開催予定です。基調講演には自閉症当事者である東田直樹さんを予定しています。

今回は、実行委員会議で綿密な計画を立て、当日慌てることなく進行していきたいと思ひます。そして、少しでも多くの方々に来場していただき、一般の方々に少しでも障害の事を理解してもらう良い機会となればと思つております。

事務局 M

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒330-0801

さいたま市大宮区土手町

一・二二二・一

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三三一

http://www.satama-plane.com/

e-mail satamacity-handynet@

bz33.plala.or.jp

発行・編集人 浅輪 田鶴子